

第 8 次森町総合計画

まちづくり構想に関する提言

平成 17 年 12 月

森町協働まちづくり委員会

目 次

はじめに	1
主要な取り組み課題	2
まちづくりの視点	7
将来像（キャッチフレーズ）	9
まちづくりの目標	10
具体的な取り組みの提案	13
（参考）	
・森町協働まちづくり委員会 委員名簿	19
・森町協働まちづくり委員会 開催経過	20
・ワークショップのまとめ	21
・地域ごとの懇談会まとめ	75

はじめに

森町協働まちづくり委員会は、第8次森町総合計画の策定にあたり、まちづくり構想に関する提言を行うことを目的として設置されました。委員会は、公募等で選ばれた町民代表20名から構成され、7月からの4ヶ月余り、計10回の議論を重ねてきました。

少子高齢化の進行や厳しい財政状況など、森町を取り巻く環境は楽観できるものではありません。このような現状の中、より自立したまちとなることをめざして、10年後の森町のあるべき姿、新しい森町のあり方について検討しました。また、「協働」という名が示すとおり、「他人任せにしない、町民が自主的・積極的にまちづくりに関わる」という視点から議論し、提言として取りまとめました。

委員会は、ワークショップ手法を取り入れるなど、プロセスを大切にし、和やかなムードで、きどらずに意見を言える雰囲気を進めました。また、提言の内容については、委員一人ひとりの思いが透けて見えるものとなるように努めました。

今回の提言が新しい総合計画の土台となり、そして「新生森町」の^(いしずえ)礎となり、町民一人ひとりの行動の指針として、意識の向上と具体的な取り組みに結び付くことを期待します。また、我々は、この提言をおこなうとともに、我々自らが行動を起こすことによって「協働のまちづくり」が大きくなうねりとなるように、第一歩を踏み出していくことを誓います。

最後に、貴重な時間をさいて委員会に参加し、活発な議論をしてくださった各委員に感謝申し上げます。

平成17年12月

森町協働まちづくり委員会 会長 小倉豊寿

主要な取り組み課題

人口の減少や高齢化の進行、財政状況の悪化、産業構造の変化など、現在の森町が置かれている状況は、従来とは大きく変わりつつあります。将来のまちの姿を考える上で、必要となることや考えなければならないことを整理し、今後取り組むべき主な課題としてまとめました。

協働によるまちづくり

*限られた資源(財源,人材など)での様々な地域の課題への対応
魅力あるまち,個性あるまち
日本だけでなく世界につながっているという,より広い視点*



まちづくりは他人任せにしないという町民の意識やその意識啓発
町民が積極的に活動できる環境

- 市民(町民)団体やNPOなどの育成や特技を生かせる場の情報提供
- 若い人達がまちづくりに参加できるような場を多く設ける

町民同士の交流を進める

- 高齢者と若者・子どもがふれあう場を設ける
- 都市部と山間部との交流を積極的に行う

人口減少と少子化への取り組み

人口の減少,子どもの数が少ない,若い人の町外への流出,山間部の過疎化による町全体の活気や活力の低下



安心して子どもを育てることができるまち

- 子育て支援の充実
- 働きたい人が働きやすい,身近な子育て施設の整備や支援
- 地域全体で子どもを育てるための取り組み

若い人達の定住化を進める

- 働く場所,住むところの提供
- 豊かな自然や歴史など森町の良さをPRし,町外に住む人達との交流を進め,新たに森町に住む人を増やす

高齢社会への対応と医療・福祉サービスの充実



高齢者が多くなる中で、元気なお年寄りを増やす

疾病予防や介護予防の充実

高齢者の健康づくりと生きがいや働ける場所をつくる取り組み



誰もが健康で生き生きと暮らすことができるまち

病院の充実

地域ぐるみで支え合う福祉の取り組み

歴史・文化の保存と継承、教育の充実



多くの名所旧跡や伝統文化、貴重な歴史的、文化的な財産

保存し次の世代に引き継ぐ

観光への取り組みに活かす

地域の一体感をつくりだすことに活用する



児童・生徒数の減少、小・中学校の統廃合などの問題

子どもが健全に育つ環境づくり

確かな学力や教養を育成する教育の充実



地域を支える人づくり、人材の育成

多様な学習機会の提供

子どもからお年寄りまで誰もが参加できる生きた社会教育の実現

生活の利便性と環境の向上

高齢社会におけるお年寄りの交通手段の確保
森町を訪れる観光客の周遊性の向上



道路や公共交通など町内の交通網の整備
第二東名高速道路の開通に伴う幹線道路の整備

豊かな自然や歴史と調和した、森町のイメージにあった良好な
街並みや景観づくり



森林や水辺を守る
まちの美化を進める
空き地や空き家の有効利用

便利で快適な人にやさしいまちづくり
安心で安全なまちづくり



身近な生活環境・生活基盤の整備
防犯や交通安全対策

産業の活性化と働く場の確保

お茶などの多くの特産物の活用



体験型観光や地元産品を使った名物料理・特産品開発など、地産地
消の拡大

農林業の後継者不足



担い手の育成
若者にとって魅力ある農林業の実現



空き店舗が目立つなど元気のない商店街

商業，商店街の振興

➤ 空き店舗の借り上げや土蔵の再活用など



豊かな自然や歴史・文化，特産品を活かした観光への取り組み
観光客が，町内を移動する手段がない，泊まる場所がない，
食べる場所がない

森町に滞在し町全体を楽しむことができる新しい仕組みづくり
町民の人柄の良さも観光に活かす



町民が安心して暮らすための，安心して働ける場所
若者の定住を促すための就業の場の確保

第二東名高速道路などを活かした産業の振興，企業誘致など
個人で事業を営む方のための環境整備

自然の保護と活用



林業不振により管理されず放置されたままの森林が増えている
山間部へのごみの不法投棄などの問題

森林の保護・保全，森林資源の見直しと活用



太田川の水位の低下や水質の悪化

太田川の美化を進める
水辺や堤防を有効活用したまちづくり
自然の宝庫となるような太田川ダムの活用



豊かな山林や太田川などの自然の良さを町民が自覚し、町に誇りを持つ

体験学習など子どもがもっと自然に触れることができる機会をつくる

森町の自然の良さを町外の人達にも知ってもらえるよう、山間地への宿泊体験など自然とのふれあいの場を創出する

一人ひとりの町民が、まちを汚さない、きれいにするという意識を持つ

町財政の見直しと健全化



厳しい財政状況

少子高齢化による税収の伸び悩み・減少，医療や福祉サービスに要する費用の増加

町の組織のスリム化や職員の意識改革・能力の向上

「あれも・これも」ではなく、「あれか・これか」の選択

行政と町民が協働し、限られた財源を有効に活かしたまちづくり

地域の産業の活性化や新しい産業の育成

観光振興などにより多くの人に森町を訪れてもらうなど、町の収入を増やすための取り組み

まちづくりの視点

これからのまちづくりを進める上で、基本となる考え方を「まちづくりの視点」として整理しました。これは、一人ひとりの町民が意識すべきものであり、まちづくりの様々な取り組みにおける共通の指針となるものです。

連携と協働

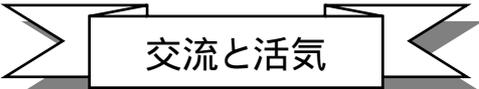
限られた資源の中で様々な課題に対応するために、個人、家族、企業、地域、団体、行政が「自分になにができるか」「誰がやればうまくいくか」という視点から、互いに役割を分担し、それぞれの良さを生かしながら、連携してまちづくりを進めます。

個性と自立

町民一人ひとりが、また、それぞれの地域が、個性を磨き生かしながら、他人任せにするのではなく、自分で考え行動を起こすことで、地域の自立をめざします。また、町政の運営や財政の面でもより自立したまちづくりに取り組みます。

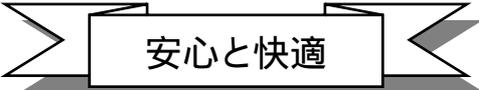
調和と創造

これまで培われてきた文化や伝統、守られてきた自然を大切にし、これらを活かしながら、歴史や環境と町民の暮らしとが調和したまちづくりを進めるとともに、常に新しい視点から新しいまちを創りだします。



交流と活気

町民同士の交流、町民と訪れる人との交流、人と自然との交流など様々な出会いとふれいあいの機会を生み出します。こうした交流を通じて、町中がにぎわい、暮らしや産業などが活気にあふれるまちをめざします。



安心と快適

住む人も、訪れる人も、誰もが心と体で森町の良さを実感できるまちをめざします。そのために、人にやさしい、安心感のもてるまちづくりや、快適に過ごすことができる環境づくりを進めます。

将来像（キャッチフレーズ）

まちづくりの視点を踏まえ、新しい森町がめざすまちの「将来像」を次のように提案します。

ええら森町！

～ みんながチカラの郷づくり^{（さと）}

古きをいかして新しきを創る ～

町に住む人、訪れる人、たくさんの人と人、豊かな自然が、出会いふれあい、森町のもつよいとこ全部を活かすことで、にぎわいにあふれ、活気を生み出すまちづくりに取り組みます。そして、住んでもよい、訪れてもよい、『いいよね！森町！！』と思えるまちをめざします。

住む人も、訪れる人も、家庭も地域も、みんながみんなのために、力を合わせ、協働することで、だれもが快適で安心して過ごすことができる、郷（さと）づくり、人づくりを進めます。

古き良きものを復活させつつも新しいことを創造し、厳しい中でもより自立したまちをめざし、チャレンジします。

まちづくりの目標

森町の将来像を実現するための、各分野におけるまちづくりの目標を次のように定めます。それぞれの目標に向かって、その分野に関わる人だけでなく、地域が一体となって取り組む必要があります。

みんながみんなのために動くまち(協働・連携の促進)

- 将来にわたって住みやすく自立したまち
- 町民一人ひとりが自覚を持ち連携して努力する，地域で支えあえるまち
- 一部の人だけでなく、全ての人実践するまちづくり
- 町民，企業，自治組織やボランティア団体等と行政が協力したまちづくり
- 意識啓発や人材の育成，情報の提供などの仕組みづくり
- 多くの人参加しやすく継続できる環境や体制づくり

みんな なっかで めくといまち(医療・介護福祉の充実)

- 誰もが健やかにいきいき暮らせるまち
- お互いに助け合い，地域で支え合う，やさしさとふれあいに溢れたまちづくり
- 保健・医療・福祉が連携した介護予防や生きがいづくり
- 地域の自然や地場産品を活用した健康づくり

学校、家族、地域ぐるみで育むまち(教育の充実・文化の振興)

- 人づくりの要としての子育て支援と教育の充実
- 家庭と学校及び地域が協力し、互いに助け合う、地域の特色を生かした地域ぐるみでの子育てと人づくり
- 町民一人ひとりが地域の歴史・文化を大切にするまち
- 伝統の中から新たな人づくりとまちづくり

住みたい、住み続けたいまち(都市基盤の整備)

- 子どもからお年寄りまで誰もが安心して暮らせる，人にやさしいまちづくり
- 便利で快適な誰もが住みたくなるまち
- 豊かな自然や歴史と調和した、日常生活や産業活動を支える基盤づくり
- 道路や公共交通機関，上下水道などの整備
- 防災対策や消防・救急体制の整備・充実，地域ぐるみでの防犯活動の推進

活気に満ちた産業を育むまち(産業の振興と雇用の創出)

- 農林業，工業，商業の活性化と新しい産業の育成など，活気に満ちた産業のあるまち，安心して働けるまち
- 地産地消の推進や地場産品を活かしたまちづくり

住む人も来たひとにも安らげるまち(観光の振興)

- 多くの人が森町を訪れる出会いと交流の機会の創出
- 豊かな自然や歴史・文化，名物や特産品を活用した観光地づくりと町外への積極的なPR
- 訪れた人が安心して快適に森町に滞在できる交通網や街並みの整備
- すべての町民が訪れる人を歓迎する，おもてなしの心をもつまち

たんと自然に たんと愛情をそそぐまち(自然・環境の保全)

- ぬくもりのある自然の中に暮らせるまち
- 自然を守り，自然と共に生きるまちづくり
- 省エネルギーやリサイクルなど，環境に配慮した取り組みを進め，資源を大切に生活をするまち

知恵と工夫で自立するまち(健全な行財政運営)

- 自主性，自立性をもったまちづくりと町政運営
- 限られた資源を有効に活用するための、町民と行政の適切な役割分担と連携
- 厳しい財政状況の下でも健全な行政運営ができるための事業やサービスの見直しと業務の改善
- 町の収入を増やすための取り組み

具体的な取り組みの提案

まちづくりの目標に向かって、今後、各分野で考えなければいけないこと、取り組むべきものとして、以下のものを提案します。これらの取り組みについては、厳しい財政状況と実現の可能性を十分に考えた上で、行政と町民が協働し、連携して進めるべきものと考えます。

みんながみんなのために動くまち(協働・連携の促進)

- 住民・企業・行政が参加した地域活性化センター(森町シンクタンク)の設立
- 協働についての町民研修の実施
- 地域通貨による地域の連携・協力の促進
- 協働のまちづくりの条例化
- ボランティア活動を促進するため、税制改革によるボランティアへの寄附の免税など企業との連携の促進
- コミュニティについての研修や意識啓発の実施
- 1地域1目玉づくりなど、地域活動における地域ごとの目標(テーマ)づくり
- 社会教育学級での学習と連携した地域活動やボランティア活動の推進
- コミュニティ活動に、多くの人に参加しやすく、継続できる環境づくり
- 組織づくりの支援や人材の育成などボランティア(組織)の登録と参加の仕組みづくり
- 地域通貨と連動した有償ボランティアによる活動の仕組みづくり
- パソコン、インターネット、同報無線などによる情報の積極的な提供

みんな なっかで ぬくといまち(医療・介護福祉の充実)

- 森町病院の福祉支援などへの積極的な活用
- 森町病院を利用しやすい環境づくり
- 町全体をユニバーサルデザインに配慮したまちにする
- 高齢者の生きがいづくり
- サロン活動を各地に広げる
- 運転ボランティア, 介護ボランティアなどリタイヤする団塊の世代が自分の技術を生かせる場をつくる
- 障がい児の学童保育を毎日できるように場所を確保する
- 障がい者(児)施設をまちなかに持ってくる
- 障がい児受け入れキャンプの実施
- 介護, 医療ボランティアの育成と受け入れ体制の整備
- 地域や近所での高齢者世帯への声かけ支援
- 公民館を中心とした健康づくりと高齢者, 子育て支援
- 地産地消による健康づくり

学校、家族、地域ぐるみで育むまち(教育の充実・文化の振興)

- コミュニティ広場等の活動として昔の遊びを子どもに教える
- 各分野における体験学習の促進
- 多様な学習機会の提供とアピール
- 現代版寺子屋（既存建物）で幼稚園や学校以外の事を教える
- 倫理教育，人格の陶冶のためのボランティアの育成，柔軟な施設の運営
- ニートの支援，養育の受け皿づくり
- 図書館の利用時間の延長（休館日の減少）
- 地域活動の場所の充実
- 公民館の積極的な活用
- 青少年の健全育成事業
- 幼稚園での地域交流
- 子どもと老人のふれあいの場をつくる
- 住みたくなるまちにするために保育園を充実させる
- 保育時間の延長ができる施設の整備
- 教育体系の見直し
- 家庭，地域における子育て（声かけ，ほめる，叱る）の促進
- スポーツや文化で子どもが自信を持つことができるように、早い時期からの育成やスポーツクラブの再編などの環境づくり
- 子どもの教育とあわせた親の教育の実施
- 弁護士学校等の誘致
- 幼稚園・小学校・中学校の連携
- 学校の統廃合の検討
- 森町独自の空教室の利用
- 教職員の資質向上
- 森町の文化財（有形・無形）の継承（特に無形文化財）
- 町内にある 100 年以上の歴史をもつ色々な祭り（無形文化財など）の伝承
- 各地区にある常夜灯をきれいにし明かりをつけ，町をアピールする
- 小國神社を巻き込んだ取り組み
- 森町スポーツ大会の開催
- 体育館，グラウンドの無料開放
- 太田川河川敷，親水公園の活用
- 海外から来る研修生の受け入れなどによる国際交流の推進

住みたい、住み続けたいまち(都市基盤の整備)

- 整備が進んでいない都市計画道路の見直し
- 用途区域を明確にし，住宅を建てやすくする
- 街路の整備とともに，空き地の整備を進める
- 町民向け家庭菜園，子どもの遊び場，特産物（柿等）の栽培等空き地，更地の利用
- 森高・周智高の跡地利用の検討
- ユニバーサルデザインによる安全・安心な市街地づくり
- コミュニティバスなどの公共交通網の充実と道路整備
- 高齢者や児童の利用しやすい小型コミュニティバスの有効活用
- 元気な高齢者を活用した有償ボランティアによるコミュニティバスの運行
- 天浜線料金の見直し
- 観光拠点をつなぐ道路網の整備
- 災害に強い道路の整備
- 街路樹整備による緑豊かな道づくり
- 人にやさしい道路環境づくり
- 歩道の段差解消など子どもや老人にやさしい歩道づくり
- 下水道の整備
- 山間地の上水道の整備
- ゴミ減量とリサイクルによる循環型社会の形成
- 良好な市街地住宅地の形成
- 耐震化にあわせ，小京都＋城下町のまちなみの保存，整備
- 景観を生かした河川・ダム周辺の整備
- さざんか荘跡地などを利用した公園緑地の整備
- 災害時のトイレ確保
- 川床の上昇対策など太田川の災害対策
- OBを活用した消防团组织づくり
- 消防団の合併
- 消防活動体験学習の実施
- 町民全体であいさつ，安全パトロールの実施
- センサー付きの街路灯の整備
- 警察OBの活用など警察と連携しての防犯体制づくり
- 地域ぐるみで交通安全，交通マナーの周知徹底
- 交通安全の体験教室，シミュレーション体験などの開催
- 消防の敏速な消火活動など初期消火への対応
- 自主防災について地域ごとに対処方法を考える
- 高齢者世帯等の災害対策

活気に満ちた産業を育むまち(産業の振興と雇用の創出)

- 官と民の協働による産業振興組織(森町シンクタンク)づくり
- 高付加価値的な農業の振興
- 体験的農業(作業, 宿泊)による教育者の育成
- 企業的な農業経営の促進
- 柿, とうもろこし, レタス, 椎茸, お茶, メロン, 梨, おいしい米など地場産品を活かしたメニューづくり
- 森町の地場産品のブランド化(究極のコシヒカリなど)と外への情報発信
- 第二東名を活かした産業振興
- 雇用と税収の確保
- 人が森町に人を呼ぶような魅力のある人が居住する人材誘致
- 治山, 治水のための広葉樹の植栽
- 大学, 研究機関との連携による自然の保全化
- 地元の商業者による商業施設づくり
- 「森の市」の拡大
- 町民が投資した自分達の商業施設づくり
- 民間主導(出資)のバスルートづくり

住む人も来たひとにも安らげるまち(観光の振興)

- 既存の歴史的施設(小國神社等)の魅力づくり
- 新たな魅力づくりとして小京都にこだわらない1社寺1目玉づくり
- 泊まる, 食べる, 交通の充実
- 森の名物(食事)づくり
- お寺めぐりなど回遊するまちづくり
- 観光ボランティアによる案内, 誘導
- デザインを統一したレトロな食のモール街をつくる

たんと自然に たんと愛情をそそぐまち(自然・環境の保全)

- 水源周辺の森の保全・管理
- 森林づくり税の活用
- 町民総出で地域の里山保全
- 針葉樹から広葉樹の森づくり
- 森林体験学習への参加を町外の人に呼びかける
- 町民が森，水の大切さを知る
- 荒れた茶畑を森林へ再生する
- 間伐材を「経木（へぎ）」に活用する
- 町民全体で太田川のゴミ拾いをする日を設ける
- バーベキュー，キャンプの人たちにゴミを捨てないようPR
- 生ゴミ処理のリサイクル
- 森の商店で売るものには「経木（へぎ）」を使う

知恵と工夫で自立するまち(健全な行財政運営)

- 生産性のある事業への予算の投資
- 産業の活性化と育成，企業誘致による税収の確保
- 売上の上がる観光の取り組み
- ボランティアを活用した案内、誘導など観光サービスの充実
- 官と民との協働組織を通じた産業振興への取り組み
- 地元商店が参加し、町民が投資する自分達の商業施設による商業の活性化
- シルバーボランティアによる草刈作業などの環境美化
- リタイヤする団塊の世代の技術を福祉や教育、産業振興、自然保護など様々な分野で活用する
- 個々の商店や施設などが出資するコミュニティバス
- 元気な高齢者を活用した運転ボランティアによるコミュニティバスの運行
- 介護，医療ボランティアの育成と活用によるきめ細かいサービスの提供